

こんにちは♪ はじめまして♪ 図書館司書の“せーやさん”です。通り名は、“図書館の天使”、“本のソムリエ”など数知れず。本が何より好き！というあなたはもちろん、本なんて全然読まないという君の心にも届くような本を、じゃんじゃん紹介していきたいと思っています。よろしくね。図書館は知識を得るための場所、学習のための場所ですが、それだけじゃもったいない。夢を見たり、心が癒されたり、居心地よかったり。君たち一人一人に図書館が意味のある場所になるよう、がんばります。では、あいさつがわりに、昨年度の超オススメ本を紹介します！どれもハズレなしだよ。

昨年度のオススメ本！

『われら闇より天を見る』 クリス・ウィタカー

海外ミステリランキングで4年連続無双状態だったアンソニー・ホロヴィッツを指定席から引きずり降ろして、去年のミステリランキングで3冠を成し遂げた大傑作！「あたしは無法者なんだよ」。カリフォルニア州の海沿いの小さな町・ケープヘイヴンに母と弟と三人で暮らす13歳の少女・ダッチェスは、酒と薬物に溺れ問題を起こす母・スターとまだ幼い弟・ロビンの面倒を見ている。彼女が「無法者」を名乗るのは、誰にも笑いものにされたくないからだ。父親のほうはたどれない(どこの誰かもわからない)家系図を調べる課題で、母親の血筋に西部開拓時代のお尋ね者がいたと知ってそれを誇りに思ったのがきっかけだ。ダッチェスは一度も泣いたことがない。スターがおかしくなってしまったのは、30年前の不幸な事件からだ。彼女がほんの15歳の少女に過ぎなかったとき、同じく15歳だった恋人のヴィンセントに誤って車ではねられ妹を殺されてしまったのだ。その衝撃から立ち直ることができず、いまだに彼女はしばしばアルコールと薬物を過剰摂取してしまう。今日もまた救急車で病院に運ばれ一命を取り留めたが、スターにとってはいつもとちがう意味を持っていた。ヴィンセントが戻ってくるのだ。懲役十年という厳しい判決を受け、さらに刑務所内での喧嘩で相手の囚人を殺してしまい二十年の刑を加算されたあげく、三十年の刑期を勤め上げて。弱さをチラリとすら見せようともせずたくましく生きようとするダッチェスに、次々と悲劇が襲いかかる。ミステリの枠に収まりきれない大感動作！

『しろがねの葉』 千早 茜

直木賞受賞作！「しろがねの葉」とは、銀の溶けた水を吸い上げて銀の行き渡った葉脈がきらめく葉のこと。「こんなきれいなものがあるのか」。「目にすれば、狂れるぞ」。貴重な銀のありかを知らせてくれます。戦国時代の銀山が舞台。銀を掘るために無数に穿たれた穴、間歩。その闇の暗さが描かれます。銀山のおなごは三たび夫を持つと言われます。長いこと潜れば石粉を吸って肺を病む間歩のなかでの過酷な労働が、男たちを早死にさせるのです。夜目が利き、暗闇を怖がらない子どもだったウメは、田を捨て逃げ出した両親とはぐれ、銀を採って人々が暮らす石銀集落で「銀の気が視えると謳われた山師」喜兵衛に拾われる。喜兵衛に間歩を見せられたウメは、目を凝らしても、凝らしても、見えない真実の闇を知り、初めて闇を怖ろしいと感じるのだった。喜兵衛に面白がられ、銀山の知識と秘められた鉱脈のありかまで授けられたウメは、女だてらに間歩で働き出す。ウメにとって喜兵衛は、親代わりであり、師匠であり、初めて愛した男でもあった。しかし、時代が徳川の世となり、喜兵衛は去ってしまうのだった。庇護者を失って銀の山に投げ出されたウメは、ひとりで生きていくための選択をする…。

『汝、星のごとく』 凧良ゆう

王様のブランチ BOOK 大賞、紀伊國屋書店が選ぶ「キノベス！2023」に！本屋大賞を受賞し、映画化もされた『流浪の月』の凧良さんの本気の恋愛小説。直木賞候補にもなりましたが、はたして史上初の二度目の本屋大賞に選ばれますでしょうか？タイトルは佐藤春夫の詩から。舞台は瀬戸内の小さな島。愛人のもとに父親が去って行ってしまった暁美。生まれてすぐに父親を亡くし、一時たりともに男なしでは生きられない母親に育てられた櫛。「普通ではない」親に振り回され、苦しんできた二人は高3で出会い、同じ孤独を分け合える恋人になった。二人はともに島を出ることを望んでいたが、櫛が在学中に雑誌連載を決めマンガ家としての将来を切り開いて東京へ行こうとする一方で、暁美は父親の愛人の家に火をつけようとするところまで追い詰められてしまった母親を見捨てることができず、島に残ることになった。東京で夢を叶えてプロのマンガ家になり、作品がヒットしてちやほやされる櫛。両親が離婚し、経済的な不安から高卒で地元の旧態依然の会社に就職した暁美。対等だったはずの関係に生じた不均衡。暁美は、櫛に女の影を見、自分に退屈していることに気づく。価値を見いだせず、侮られる程度でしかない自分が悔しい。本当に相手のことだけを愛していた二人なのに、すれ違ってしまう…。

『同志少女よ、敵を撃て』 あいさかとうま 逢坂冬馬

刊行後にロシアがウクライナに侵攻し、本屋大賞受賞！女性のみで構成された狙撃兵部隊。ありえない設定のように思われますが、第二次世界大戦の独ソ戦においては、百万人ものソ連の女性が従軍し、多くが自ら兵士として戦ったのです。その中の一人であろう女性狙撃兵の物語。彼女がいかにして百人の命を奪う狙撃手となったか。モスクワ近郊の農村で暮らす、大学進学を控えた16歳の少女・セラフィマの幸福な日常が突然奪われる。ドイツ軍に急襲され、母親ばかりか村人が皆殺しにされたのだ。現れた赤軍によって間一髪セラフィマは救われるが、リーダーらしき女性兵士は「戦いたい、死にたい」と尋ねてセラフィマの頬を張るのだった。そして、母の遺体と思いの我が家を燃やしてしまう。敵を討つ。母を殺したドイツ兵と、母と村のすべてを焼きつくした女性兵士に。女性兵士はイリーナといい、セラフィマをある場所へと連れて行った。そこは、女性だけの狙撃兵訓練学校。そこには、セラフィマと同じように家族や故郷をナチス・ドイツに奪われた少女たちがいた…。

『川のほとりに立つ者は』 てらち 寺地はるな

『水を縫う』を凌駕する大傑作！カフェで店長をしている清瀬きよせのスマホに病院から電話がかかってくる。恋人の松木が歩道橋からもう一人の男性と転がり落ち、二人ともに意識が戻らないという。実は彼女はずいぶんと長いあいだ、彼と会っていなかった。彼の部屋で、彼が隠していた『手紙の文例集』と女性の宛名が記された手紙の下書きの書かれたノートを見つけ、それが原因で喧嘩になったからだった。「隠し事」についていっこうにすっきり説明はされず、連絡は取り合ってもずっとぎくしゃくしたままだったのだ。彼の部屋に行ってみると、ほかにもおかしなものが残されていた。清瀬が読んだノートとは別にもう2冊ノートがあり、それは小学生が使うようなマス目のあるもので子どものものらしき稚拙な字で埋められていた。また、ホワイトボードや漢字辞典、ひらがなドリルまであった。誰か小学生に字を教えていたというのか？歩道橋でいっしょに転倒した相手は「大事な友だち」で、喧嘩をした果ての事故なのだという。「やさしくて、素直で、まっとう」。そんな印象だった彼が喧嘩!? 清瀬は「わたしはいったい、松木のことをどれだけ知っているんだろう？」と不安に駆られる…。「わたしは今まで、松木だけじゃなく、誰のこともわかってなかったと思うんです。わかろうとしてこなかったんです。他人にたいして『なんか理由があるのかもしれん』って想像する力が足りなくて…」。

『宙ごはん』 町田そのこ

「思いがこもった料理は、ひとを生かしてくれる」。宙には、育ててくれている「ママ」と産んでくれた「お母さん」がいる。物心ついたころには、厳しいところもあるが優しい母親の理想像のようなママ・風海に育てられていたが、実際のお母さんは月に一二度しか会えないママの三つ上の姉・花野なのだった。「お母さん」ではなく「カノさん」と呼ばせる彼女は幻のように美しく、思いっきり宙を甘やかせてくれて「お母さん」どころか「大人」の感じもさせない魅力的な彼女のことが大好きだったけれど、それはたまにしか会わないからだったと宙は気づくことになる。宙が小学校に上がる時、夫の海外赴任に同行する風海のもとを離れ、花野と暮らし始めることになったのだ。待っていたのは、イラストレーターの仕事に夢中で日常は後回し、ごはんも作らず子どもの世話もしない、授業参観には来ないのに恋人とデートには行く母親との生活だった。幻滅させられてばかりの花野については「やっぱ、無理。引き取るんじゃないかった」とまで言われ、家を飛び出した宙を救ってくれたのは、家にごはんを作りに通ってくれていた佐伯だった。花野のことが好きで、商店街のビストロで働く佐伯は、とっておきのパンケーキを作ってくれたのだ。それは、風海が家族が元気になるために作ってくれた魔法の料理だった。「一緒に食べる、それだけで胸が温かくなる。もう大丈夫だ、そんな気持ちになる」。

『おすしが ふくを かいにきた』 田中達也

パセリが森に、台所用スポンジが海や砂漠に。野菜やくだものやお菓子などの食べものや文具などの身の回りのものと小さなジオラマ用の人形を組み合わせて、身近なものを何かに見立てる「みたて」の世界。思わぬ発想に「くすり」とさせられます。インスタフォロワー数、なんと 370 万！ 図書館でもそれを本にまとめた『MINIATURE LIFE』が大人気の田中達也さんの絵本！ マグロを背中に背負った「おすし」。この姿だけでつかみはOKなのですが（サングラスまでかけています!）、彼の行き先は洋服屋さん！ お店にはエビやタコがぶら下がっています。マグロはお洋服だったのですね！ ほかにコーンだけの姿のアイスがぼうし（クリーム）を買いにきたり「人気の抹茶はいかがです?」、シュウマイがせいろのサウナに入りきたり。ソーセージのくるま（パン）はいろんな種類があり、イチゴがさがすベッドはふっかふかのショートケーキなのです！

————— 図書館はキミを歓迎します！ では、図書館で会おうね♪